11 月は人権啓発強調月間

同和問題をはじめとする人権問題を解決するためには、私たち一人ひとりが、「人権は自分自身の生活に深く関わる自らの課題」との認識を持ち、それに対する理解を深めることが必要です。

美波町では11月を「人権啓発強調月間」と定め、美波町役場・日和佐公民館・由岐支所に懸垂幕を掲げ、すべての人の人権の尊重にむけて、関係機関・団体等の連携・協力のもと、総合的な人権啓発を推進していきます。

◎「第27回みなみ・にこにこ人権フェスティバル」

11月22日(土)に日和佐公民館において「第27回みなみ・にこにこ人権フェスティバル」を開催します。

今年は、ピアニストの山本貴子さんをお迎えして人権コンサートを実施します。

みなさんの身の回りにある人権について学んでみませんか?ご参加お待ちしています。

女性に対する暴力をなくす運動
11月12日(水)から11月25日(火)（女性に対する暴力撤廃国際日）

「DVや性暴力に気づいたら 相談されたら。そのとき、私たちにもできることがある。」

配偶者等への暴力(DV)、性犯罪・性暴力、ストーカー行為、売買春、人身取引、セクシュアルハラスメント等の暴力は、重大な人権侵害であり、決して許されない行為です。

「女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク」や「パープルリボン」を利用して、社会認識を広げましょう。

期間中、役場住民生活課・由岐支所窓口でパープルリボンを配布しています。

11月は秋のこどもまんなか月間
11月20日(木)は　『世界子どもの日』

子どもの権利を保障する『子どもの権利条約(子どもの権利に関する条約)』が1989年11月20日に国連で制定されました。その日にちなみ、毎年11月は子どもの権利について考え、普及啓発する月間としています。オレンジ色のリボンをシンボルマークとして広めることで、子ども虐待問題への関心を高め、家庭や学校、地域等の社会全般にわたり、児童虐待問題に対する深い関心と理解を得ることができるよう取り組むものです。

あれって虐待かもと思ったら、すこしでも虐待の可能性を感じたら、『189』へどうか迷わずお電話ください。

役場福祉課窓口ではオレンジリボンバッジを配布しています。

ひとりで悩まずご相談ください！

【みんなの人権110番】（全国共通人権相談ダイヤル）

法務省人権擁護局・全国人権擁護委員連合会では、学校や職場でのいじめ、インターネット上の誹謗中傷、差別、暴力・虐待・DV、ハラスメントなど様々な人権問題の電話による相談を受け付けています。

☎0570-003-110（ゼロゼロみんなのひゃくとうばん）

自動音声ガイダンスに従い、ご相談を希望する人権問題に応じ、番号を押してください。

▶女性…1番　▶高齢者…2番　▶障害者…3番　▶その他の人権問題…4番

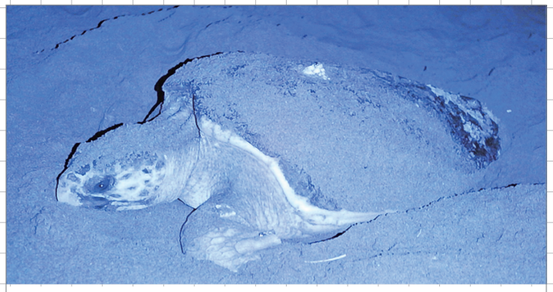
※こどもに関する相談は、フリーダイヤル（☎0120-007-110）でも受け付けています。

町民一人ひとりが相手を思いやり、多様な価値観を認め合う社会をめざしましょう。
「心温かい人々が暮らす、にぎやかな過疎の町」美波町であり続けるために人権について考え守っていくことが
まさに、“にぎやかそ”美波町まちづくりにつながります。このコーナーでは人権に対する思いを掲載していきます。

ウミガメ News Letter No.47

1頭のアカウミガメ

今年の大浜海岸では、7回の上陸と5回の産卵を確認しました。それは産卵個体としては小型の1頭のアカウミガメによって行われました。一般的に1頭のウミガメが1シーズンに4～5回の産卵を行うことは珍しいことではありません。しかし、この1頭だけが上陸産卵している現状は、大浜海岸の上陸産卵が安定しているとは言えない状況を示しています。加えて、今回、産卵したアカウミガメは甲長77.6cmと産卵個体としては小型で、産卵の様子から経験の浅さがうかがえました。産卵のための穴を掘る動作にはぎこちなさがあり、上陸を報告して頂いた監視員さんたちと「ひょっとして初産かな?」などと話していました。そのぎこちなさは巣穴の深さにも表れていました。通常40～60cmの深さに掘られる巣穴が、この母ガメの場合は20～40cmと浅い状態でした。そして、浅く産み落とされた卵は、猛暑が続いた今年、その影響を強く受けたと考えられます。孵化率調査の結果、6月15日に産卵された135個のうち、孵化したのはわずか12個でした。また、孵化しなかった卵の多くは胚（ウミガメの体になる部分）がなく、特に3回目以降では殆どの卵に胚がない状態でした。このことは、今回の母ガメが初産で、まだ体内で卵を作り出す卵巣の機能が安定していなかった可能性があります。経験不足と猛暑という2つの要因が、孵化率の低下に影響を与えたと考えられます。しかし、この小さな母ガメの挑戦を無駄にはしたくありません。今後もウミガメが産卵しやすい環境の維持と向上に努めたいと思います。「ウミガメの聖地」を守るためには、産卵地である大浜海岸の環境保全が不可欠です。この小さな母ガメが数年後に再び大浜海岸に戻り、今度はより多くの子ガメ達が海に旅立つことを期待し、皆様の温かいご支援とご理解をお願いいたします。（館長:平手康市）



今年、大浜海岸で上陸産卵した小型のアカウミガメ
（赤外線を使用してウミガメに影響の少ない方法で撮影）

うみがめについての質問をお送りください。
お答えします!
〒779-2304 徳島県海部郡美波町日和佐浦369 うみがめ博物館カレッタ「質問係」
応募フォーム

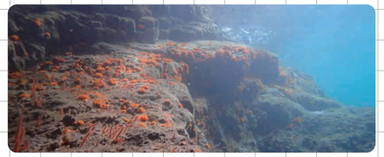
Question 砂浜はどのようにして出来ますか?

Answer 川や海で細かくくだかれた岩石などが長い年月をかけて、波、流れ、風などの影響を受け海岸に寄せ集まった地形が砂浜です。その為、砂浜の周辺で地形を変えてしまうと、波、流れ、風などの強さや向きが変り、砂浜の形が変わったり、無くなったりすることが各地で報告されています。

みなみの海のいきもの図鑑（ずかん）

太平洋（たいへいよう）に面する美波町では多くの生き物たちが生息（せいそく）しています。このコーナーでは実際（じっさい）に撮影（さつえい）してきたリアルな写真と共にいろんな生き物たちをご紹介（しょうかい）します!

イボヤギ

イボヤギは、花が咲いたように見えるサンゴの仲間です。一般的なサンゴは体内に「褐虫藻」という共生藻をもち光合成で栄養を得ていますが、イボヤギはそれを持たず光合成をしません。そのため太陽の光が届かない岩陰や岩穴、岩礁の壁面などあまり光が当たらないところで多くみられます。日和佐の千羽海崖付近の海中には岩穴や洞窟がいくつかあり、写真のようにたくさんのイボヤギが見られます。食事はオレンジ色の触手を伸ばして黄色い花びらのように見えるポリプを開き、海中を漂う動物プランクトンなどを捕らえて行います。

（ダイバー：長楽美保）